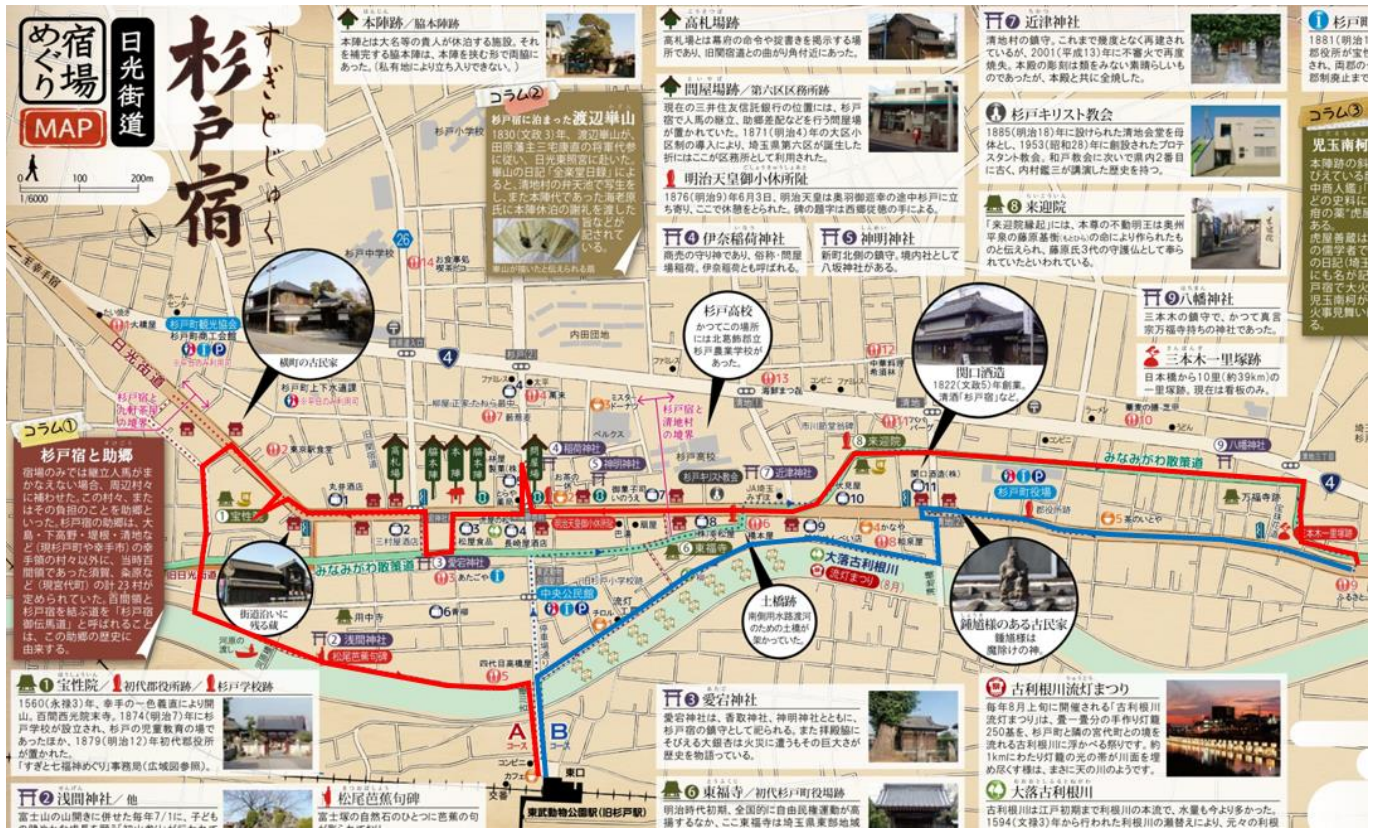


2024年3月1日(金)、前日からの雨が心配でしたが、予報が当たり日差しが出て、まずまずのハイキングを10名で楽しむことができました。

12月の越谷宿に続き、今回は埼玉県に入って4番目の宿場「杉戸宿」を散策しました。大落古利根川(おおおとしふるとねがわ)の河畔の散策、旧日光街道や整備された散策道を歩いてきました。

コースは下図の赤/青線のルートで約6.0kmのコースでした。



9:45 東武動物公園駅にて出発前

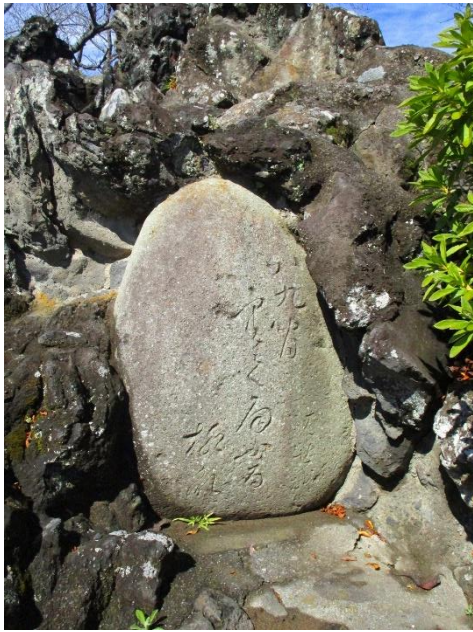


9:50 東武動物公園駅を出发



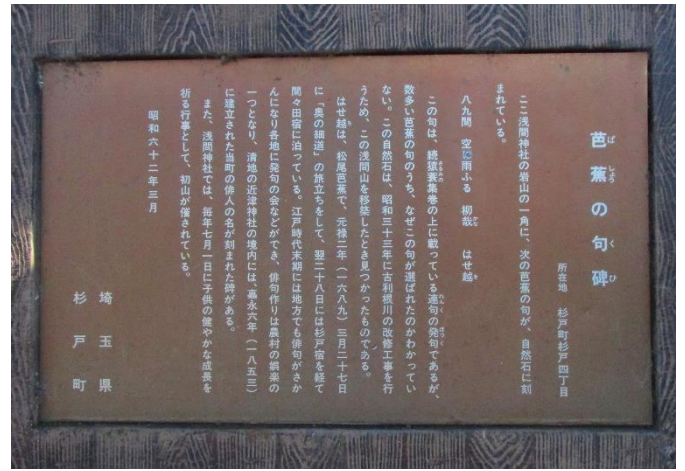
10:02 大落古利根川沿いを浅間神社・芭蕉句碑に向かう

古利根川は江戸初期まで利根川の本流。1594(文禄3)から行われた瀬替えにより、元々の利根川が古利根川と呼ばれるようになった。その後多くの農業排水路が合流することから「大落」とも称される。



10:10
芭蕉句碑

浅間神社の岩山の一角にある自然石に、松尾芭蕉の句が、刻まれている。



「八九間 空に雨ふる 柳哉 はせ越」

この句は、続猿蓑集巻の上に載っている連句の発句とのこと。この自然石は、昭和33年古利根川改修工事のため、浅間山を移築した時に、見つかったとのこと。

10:20 宝生院

1560(永禄3)年、幸手の一色義直が開山。1874(明治7)年杉戸学校が設立され、杉戸の児童教育の場。



10:40 愛宕神社
杉戸宿の鎮守の一つで、拝殿脇の大銀杏は火災遭うも生き延び、巨大さが歴史を物語っている。



太い幹の内部は炭化していました。



10:50 本陣跡地前の信号標識

旧日光街道筋に戻り、案内地図にある本陣跡地、脇本陣跡地の表示、標識などがなかなか見当たりません。ようやく見つけたのが、交差点の信号にあった「本陣跡地前」の標識でした。この報告書作成の時に再度ネットで調べたところ、近くの一般個人宅になっていて当時の門構えの一部はあるが、公開していないとのことでした。



10:53 稲荷神社

商売の守り神で、杉戸宿の問屋場にあったため「問屋場稲荷」と呼ばれる。

10:38 明治天皇小休止跡碑

明治 9 年(1876 年)、明治天皇は奥羽御巡幸の途中、杉戸に立ち寄りここで5分間の休憩をとられた場所、その記念碑。

碑の題字は、西郷隆盛の甥の西郷従徳(じゅうとく)の手によるもの。これもなかなかみつかりませんでした。三井住友信託銀行 杉戸支店前の片隅にありました。



11:03 近津神社

清地村の鎮守。2001 年の不審火で焼失、本殿の彫刻は類を見ないものであったとのこと。



11:04 高札場 (復元)

高札場は、江戸時代に幕府や領主による法令を書き記した木札(=高札)を掲示する施設。平成 28 年(2016 年)の杉戸宿開宿 400 年プロジェクトの一環で、町企業と地元の日本工業大学の連携作業で復元させたものだそう。



11:07 杉戸キリスト教会

「杉戸キリスト教会」は、埼玉県内で 2 番目に古い教会(母体の清地会堂が明治 18 年(1885 年)に設立)

11:10 散策道へ入る前に小休止





11:20
 「みなみがわ散策道」
 ブロック敷の歩道
 ができており、所々
 に休憩場所がせつ
 ちされていました。



11:26 八幡神社
 三本木の鎮守で、かつて真言宗万福寺を持っていた神社
 (近くに三本木一里塚(日本橋から10里(約40km))がある。



12:00そば処「ふるさと」
 中には水車もあり趣のある蕎麦
 屋でした。



「天ざる」



2023年度総会(会計報告と2024年度計画)
 も兼ねて昼食





12:50 食事後旧日光街道を駅方向へ歩く

12:55 関口
酒造



現在は酒類の製造販売は止めていましたが、創業は 1822 (文政5)年の歴史のある造り酒屋



13:05 大落古利根川の川辺にて集合写真



13:30 古利根川に沿って帰途につく。

3月に入った初日、天気予報通り晴れ上がり、少し風はありましたが、無事に歩くことができました。

日光街道杉戸宿の街並みといっても、古い建造物が多く並んでいる訳ではなく、史跡の案内標識も不十分でしたので、多少探したりで、皆さんにもご迷惑をおかけしました。

しかし、旧街道の周辺の所々に、古くからの家屋が点在しており、宿場町の影は十分に残っていました。

コース距離では6kmくらいでしたが、万歩計では約1.3万歩でしたので、実質8km以上の歩行距離であったかと思います。何はともあれ、皆さん無事に完了できてよかったです。参加の皆様、大変お疲れさまでした。

次回は、4月5日(金)「深谷 唐沢川桜/遊歩道散策」が美術工芸科の担当で開催されます。皆様のご参加をお待ちしております。

記:加藤 治朗